

「森のアスレチック (秋編・1)」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーション研究所 研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka

山荘の裏庭の森は、広さこそ数百坪あり、カラマツ、クリ、アカマツ、ミズナラなどの樹木が多い、自然豊かな土地である。しかし、今まであまり活用してこなかった。



最も「活用」してくれていたのは、野生動物だろう。大型の巣箱を設置すると、フクロウやムササビが営巣し、内部のカメラで子育ての様子を観察することもできた。写真は、フクロウの巣立ちの様子である。



哺乳類もよく現れる。一番多いのはキツネだが、他にも、テン、タヌキ、アナグマ、リス類、アライグマ、シカ、それにカモシカもよく見かける。もちろん鳥類も多数訪れて、声と姿で楽しませてくれる。



今年の夏は「キャンプ場」としてもデビューを果たした。私は自分の山荘の敷地で、こんな自然の楽しみ方があるとは、まったく考えていなかった。



そしてこの秋、ついに「森のアスレチック」が「堂々オープン」となった。8月中旬に設置した何種類かの「簡易アスレチック」(総工費約 7000 円!) で、三連休の間、友人の子どもたちが楽しんでくれた。



まずは「森のはしご」カラマツの高木に、ただ 8メートルのアルミはしごを固定しただけだ。アスレチックとは言い難いが、子どもたちには意外と人気だった。